

## 【表紙】

【発行登録番号】	8 - 関東 1
【提出書類】	発行登録書
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年 5月27日
【会社名】	株式会社リプロセル
【英訳名】	ReproCELL Incorporated
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横山 周史
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目 8 番11号
【電話番号】	045-475-3887（代表）
【事務連絡者氏名】	経営管理部 GM 山根 幸司
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目 8 番11号
【電話番号】	045-475-3887（代表）
【事務連絡者氏名】	経営管理部 GM 山根 幸司
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】	株式
【発行予定期間】	この発行登録書による発行登録の効力発生予定日（2026年 6月 4日）から 1年を経過する日（2027年 6月 3日）まで
【発行予定額又は発行残高の上限】	発行予定額 2,400,000,000円（注） （注） エクイティ・プログラム契約（以下に定義する。）に基づき合計 4回にわたって発行される当社普通株式合計最大11,728,000株についての発行価額の上限額を記載したものであり、実際の発行価額は、株価動向等により、上記金額を下回る可能性がある。
【安定操作に関する事項】	該当事項はありません。
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号）

## 第一部【証券情報】

### 第1【募集要項】

以下に記載するもの以外については、有価証券を募集により取得させるに当たり、その都度「訂正発行登録書」又は「発行登録追補書類」に記載します。

#### 1【新規発行株式】

種類	発行数	内容
普通株式	未定	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 なお、単元株式数は100株となっております。

(注) 1. 本発行登録書による募集（以下「本募集」という。）は、2026年5月27日付の取締役会決議及び下記(注) 2に記載の今後開催予定の取締役会における決議によります。

なお、本発行登録書の対象とした募集に係る当社普通株式（以下「本普通株式」という。）の発行（以下「本第三者割当」という。）は、金融商品取引法に基づく発行登録の効力発生及び発行登録追補書類の提出を条件としております。

2. 本募集は、当社及びCVI Investments, Inc.（以下「割当予定先」という。）との間で本日付で締結されたEquity Program Agreement（以下「エクイティ・プログラム契約」という。）に基づき、以下の日程及び条件に従い、当社が割当予定先に対して計4回にわたり当社普通株式を割り当てることを企図するものです。

	第1回目の発行	第2回目の発行	第3回目の発行	第4回目の発行
発行数	2,932,000株	最大2,932,000株	最大2,932,000株	最大2,932,000株
		第2回目乃至第4回目の発行において発行される当社普通株式の数は、それぞれ原則として2,932,000株ですが、各回発行決議日の直前取引日の東京証券取引所における当社普通株式の終値（以下「直前取引日終値」という。）が222円を超える場合には、586,400,000円を当該回の本普通株式の1株当たりの発行価額（下記「4 新規発行による手取金の使途（1）新規発行による手取金の額」（注）1に記載されます。）で除した数（100株未満切捨て）とします。		
発行決議日	2026年5月27日	2026年7月1日 （予定）	2026年8月19日 （予定）	2026年10月5日 （予定）
発行予定日	2026年6月11日	2026年7月16日	2026年9月3日	2026年10月20日

なお、エクイティ・プログラム契約に基づき、当社は割当予定先に対して当社新株予約権（以下「本新株予約権」という。）も割り当てる予定であり、当該新株予約権の募集について本日付で発行登録書を提出しています。

3. 本募集における各本普通株式の割当てについては、エクイティ・プログラム契約に定められる以下の条件（以下「本発行条件」という。）が各回の割当日時点で充足されていることを条件として行われます。そのため、本発行条件が充足されない場合、計4回の割当ての一部又は全部が行われない可能性があります。但し、本発行条件が全て充足されていない場合であっても、割当予定先はその裁量により、かかる条件の全部又は一部を放棄することができ、その場合には発行を行う場合があります。

当社がエクイティ・プログラム契約上の義務に重大な違反をしていないこと

エクイティ・プログラム契約に基づき発行される当該回の当社普通株式又は当社新株予約権証券について、裁判所による差止め命令等がなされていないこと

上記各発行決議予定日前の30取引日の間において、当社普通株式の出来高の平均が300,000株を下回る取引日が3取引日以上存在しないこと

上記各発行決議予定日前の30取引日の間において、当社普通株式の売買高加重平均価格が140円以下となる取引日が3取引日以上存在しないこと

当社普通株式が東京証券取引所に上場されており、売買停止や上場廃止等のおそれがないこと

当社の支配権の変動を生じさせる取引が当社又は第三者により公表されていないこと

当社に関してエクイティ・プログラム契約に定めるデフォルト事由（当社が発行する株式の上場廃止等）が発生していないこと

当社の役員等から提供された当社に関する未公表の重要事実を割当予定先が保有していないこと

当社グループの事業やエクイティ・プログラム契約に基づく各割当て等について、重大な悪影響を及ぼす事由が発生していないこと

各割当てについて金融商品取引法に基づき発行登録書及び発行登録追補書類が提出され、効力が発生していること

各割当てが東京証券取引所の規則等に違反しないこと

当社株主（以下「貸株人」という。）と割当予定先との間で、当社普通株式（上限500,000株）を貸し付ける株式貸借契約が締結され、貸株人が同契約上の義務に係る重大な違反をしていないこと

4. 振替機関の名称及び住所

名称：株式会社証券保管振替機構

住所：東京都中央区日本橋兜町7番1号

## 2【株式募集の方法及び条件】

### （1）【募集の方法】

区分	発行数	発行価額の総額（円）	資本組入額の総額（円）
株主割当	-	-	-
その他の者に対する割当	未定	未定	未定
一般募集	-	-	-
計（総発行株式）	未定	未定	未定

（注）1. 第三者割当の方法によります。

2. 発行価額の総額は、会社法上の払込金額の総額であり、資本組入額の総額は会社法上の増加する資本金の額の総額であります。なお、発行価額は、各発行の発行条件を決定する取締役会決議において、各回発行決議日の直前取引日終値の90%に相当する金額（円未満切上げ）とする予定です。

### （2）【募集の条件】

発行価格（円）	資本組入額（円）	申込株数単位	申込期間	申込証拠金（円）	払込期日
未定	未定	100株	未定	-	未定

（注）1. 第三者割当の方法によるものとし、一般募集は行いません。

2. 発行価格は会社法上の払込金額であり、資本組入額は会社法上の増加する資本金の額であります。なお、発行価格は、各発行の発行条件を決定する取締役会決議において、各回発行決議日の直前取引日終値の90%に相当する金額（円未満切上げ）とする予定です。

3. 申込み及び払込みの方法は、当社と割当予定先との間で総数引受契約を締結し、払込期日までに払込取扱場所へ発行価額の総額を払い込むものとしします。

4. 払込期日までに、割当予定先との間で総数引受契約を締結しない場合、本第三者割当に係る割当は行われなないこととなります。

5. 本第三者割当のうち、2026年5月27日付の取締役会決議による第1回目の新株発行の概要は以下のとおりです。

募集株式の種類及び数	普通株式2,932,000株
払込金額	1株につき127円
払込金額の総額	372,364,000円
増加する資本金の額	186,182,000円
増加する資本準備金の額	186,182,000円
割当方法	CVI Investments, Inc.に対する第三者割当の方法による
払込期日	2026年6月11日
その他	株式の発行は、金融商品取引法に基づく発行登録の効力発生及び発行登録追補書類の提出を条件とする。

### 3【株式の引受け】

該当事項はありません。

### 4【新規発行による手取金の使途】

#### (1)【新規発行による手取金の額】

エクイティ・プログラム契約に基づき設定された株式及び新株予約権発行プログラム(以下「本プログラム」という。)全体によって調達する資金の見込総額(差引手取概算額)は、次のとおりです。

払込金額の総額(円)	発行諸費用の概算額(円)	差引手取概算額(円)
4,994,134,240	33,000,000	4,961,134,240

(注)1. 上記の払込金額の総額は、上記「1 新規発行株式」(注)2に記載の第1回目の発行乃至第4回目の発行により発行される本普通株式及び本新株予約権に係る払込金額に本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額の合計額を合算した金額であります。上記払込金額の総額に関して、各発行の内訳は以下のとおりとなります。なお、第2回目の発行乃至第4回目の発行に係る本普通株式の払込金額は、本プログラムにおいて、各回において発行される本普通株式の発行価額の総額は、当社の株価水準にかかわらず586,400,000円を超えないように設計されていることから、各回において発行される本普通株式の発行価額の総額がそれぞれ586,400,000円であると仮定しています。第2回目の発行乃至第4回目の発行に係る本新株予約権の払込金額の総額は、第1回目の発行と同じであると仮定しています。第2回目乃至第4回目の各回の発行に係る本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額(行使価額)の総額は、当社の株価水準にかかわらず782,844,000円を超えないように設計されていることから、各回において発行される本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額(行使価額)の総額がそれぞれ782,844,000円であると仮定しています。以上のとおり、上記払込金額の総額及び以下の内訳は一定の仮定に基づく見込額であり、実際の金額は、各発行の発行条件を決定する取締役会決議において、それぞれ、本普通株式の払込金額は、各回発行決議日の直前取引日終値の90%に相当する金額(円未満切上げ)、本新株予約権の払込金額は第三者評価機関が算定した本新株予約権の評価額、本新株予約権の行使価額は各回発行決議日の直前取引日終値の120%に相当する金額(円未満切上げ)とし、本普通株式の発行数は上記「1 新規発行株式」(注)2に記載のとおりとする予定です。

第1回目の発行により発行される本普通株式に係る払込金額の総額

372,364,000円

第2回目の発行により発行される本普通株式に係る払込金額の総額

586,400,000円

第3回目の発行により発行される本普通株式に係る払込金額の総額

586,400,000円

第4回目の発行により発行される本普通株式に係る払込金額の総額

586,400,000円

第1回目の発行により発行される本新株予約権に係る払込金額の総額

3,899,560円

第2回目の発行により発行される本新株予約権に係る払込金額の総額

3,899,560円

第3回目の発行により発行される本新株予約権に係る払込金額の総額

3,899,560円

第4回目の発行により発行される本新株予約権に係る払込金額の総額

3,899,560円

第1回目の発行により発行される本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

498,440,000円

第2回目の発行により発行される本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

782,844,000円

第3回目の発行により発行される本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

782,844,000円

第4回目の発行により発行される本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額

782,844,000円

2. 本新株予約権の行使価額が調整された場合には、払込金額の総額及び差引手取概算額は減少する可能性があります。また、本新株予約権の行使期間内に行使が行われない場合及び本新株予約権の保有者がその権利を喪失した場合には、払込金額の総額及び差引手取概算額は減少いたします。
3. 発行諸費用の概算額には、消費税等は含まれておりません。

4. 発行諸費用の概算額は本プログラム全体に要する発行諸費用の合計であり、主に、弁護士費用、及びその他事務費用(印刷事務費用、登記費用)等からなります。

(2) 【手取金の使途】

<本プログラム全体により調達する資金に関する資金使途>

本プログラム全体により調達する資金(差引手取概算額)の具体的な使途については、次のとおり予定しております。

具体的な使途	金額(百万円)	支出予定時期
T I L療法プロジェクトの治験及び承認申請準備に係る費用	1,000	2026年6月～2028年3月
難治性固形がんを対象とした「GPC-1 CAR-T療法」の研究開発及び臨床試験開始準備に係る費用	2,000	2026年7月～2029年6月
新規パイプラインの適用拡大、新規開発、及び導入に係る費用	1,521	2026年7月～2031年6月
運転資金等	440	2026年6月～2029年3月
合計	4,961	-

(注) 1. 調達資金を実際に支出するまで銀行口座で管理いたします。

2. 上記記載は、本プログラム全体で調達される手取金の使途について記載しております。本プログラムの詳細については、上記「1 新規発行株式」(注) 2及び(注) 3をご参照ください。本プログラム全体で調達される手取金は、本プログラム全体における払込金額の総額の見込額4,994,134,240円から、本プログラム全体に要する発行諸費用の概算額33百万円を差し引いた金額である4,961,134,240円を見込んでおります。なお、本プログラム全体における払込金額の総額の見込額4,994,134,240円は、一定の仮定に基づく見込額です。第2回目の発行乃至第4回目の発行に係る本普通株式の払込金額は、本プログラムにおいて、各回において発行される本普通株式の発行価額の総額は、当社の株価水準にかかわらず586,400,000円を超えないように設計されていることから、各回において発行される本普通株式の発行価額の総額がそれぞれ586,400,000円であると仮定しています。第2回目の発行乃至第4回目の発行に係る本新株予約権の払込金額の総額は、第1回目の発行と同じであると仮定しています。第2回目の発行乃至第4回目の各回の発行に係る本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額(行使価額)の総額は、当社の株価水準にかかわらず782,844,000円を超えないように設計されていることから、各回において発行される本新株予約権の行使に際して払い込むべき金額(行使価額)の総額がそれぞれ782,844,000円であると仮定しています。実際の金額は、各発行の発行条件を決定する取締役会決議において、それぞれ、本普通株式の払込金額は、各回発行決議日の直前取引日終値の90%に相当する金額(円未満切上げ)、本新株予約権の払込金額は第三者評価機関が算定した本新株予約権の評価額、本新株予約権の行使価額は各回発行決議日の直前取引日終値の120%に相当する金額(円未満切上げ)とし、本普通株式の発行数は上記「1 新規発行株式」(注) 2に記載のとおりとする予定であり、実際の本プログラムによる調達資金の総額、発行諸費用の概算額及び差引手取概算額は増加又は減少することがあります。
3. なお、上記に記載のとおり調達資金の総額等が減少した場合には、次の優先順位にて使途を実行いたします。

T I L療法プロジェクトの治験及び承認申請準備に係る費用

難治性固形がんを対象とした「GPC-1 CAR-T療法」の研究開発及び臨床試験開始準備に係る費用

運転資金等

新規パイプラインの適用拡大、新規開発、及び導入に係る費用

上記表中に記載の各資金使途についての詳細と具体的内容は以下のとおりです。

T I L療法プロジェクトの治験及び承認申請準備に係る費用

当社は、第16回新株予約権による調達資金を、新規パイプライン探索・導入の推進に充当する方針としておりましたが、新規パイプラインの具体的な成果として顕在化したT I L療法の具体的な臨床段階への進展の資金として、第16回新株予約権による調達資金を活用しております。当社は、慶應義塾大学医学部産婦人科学教室との共同研究を通じ、進行子宮頸がんを対象とする先進医療BにおけるT I L製造法の技術移転を完了するとともに、2024年11月には当社が受託製造したT I Lを用いた2例目の患者投与が実施されて以降も、実施計画に基づき対象患者への投与及び当社におけるT I L製造・供給を継続して進めており、臨床現場における製造・供給体制の構築を進めてまいりました。また、2024年10月には新規培養法に関する共同研究契約を締結(当社が2024年10月28日付で開示いたしました「腫瘍浸潤リンパ球(T I L)輸注療法のためのT I Lの新規培養方法に関する慶應義塾大学医学部産婦人科学教室との共同研究契約に関するお知らせ」をご参照ください。)し、技術基盤の強化を図っております。第16回新株予約権による資金調達額1,217百万円のうち、運転資金98百万円及びT I L

療法の臨床現場における製造・供給体制の構築に175百万円の合計273百万円を充当しておりますが、第16回新株予約権の調達資金の未充当額944百万円及び今回の資金調達額1,000百万円の合計1,944百万円を今後のT I L療法を当社の自社パイプラインとして承認申請・商用化の段階へ引き上げるための資金として充当いたします。

これらの成果を踏まえ、T I L療法を当社の自社パイプラインとして承認申請・商用化の段階へ引き上げるためのものであり、自社主導での治験準備費用及び早期臨床試験(第 / 相)に係る費用に944百万円、製造販売承認申請を見据えた品質管理体制の高度化及び製造プロセス最適化に係る費用に800百万円、並びに外部C R O等への委託費用等に200百万円を充当する予定です。

#### 難治性固形がんを対象とした「GPC-1 CAR-T療法」の研究開発及び臨床試験開始準備に係る費用

GPC-1 CAR-T療法は、第16回新株予約権発行以降の継続的な新規パイプライン探索活動の成果として、2024年12月のA M E D公募事業への採択を契機に新たに当社パイプラインに加わったものです。現在、京都大学大学院医学研究科及び国際医療福祉大学医学部との共同研究のもと、薬事規制に準拠した非臨床試験、品質・製造方法の確立等を進めております。今回の資金調達により、食道がん等の難治性固形がんを対象とした臨床試験の早期開始に向けた研究開発費に700百万円、非臨床試験費用に250百万円、C M C関連費用及び治験開始準備費用等に1,050百万円を充当し、新たな成長の柱として早期に臨床段階へ進展させてまいります。

#### 新規パイプラインの適用拡大、新規開発、及び導入に係る費用

第16回新株予約権による調達資金は、新規パイプライン探索・導入の推進を目的としておりましたが、その成果は、T I L療法の具体的な臨床段階への進展及びGPC-1 CAR-T療法の新規追加として顕在化しております。当社は、これらの成果を踏まえ、研究支援事業で培った国内外の大学、公的研究機関及び製薬企業とのネットワーク並びに再生医療等製品の導入から臨床開発までのノウハウを活用し、希少疾患領域を中心とする有望な細胞医薬品のライセンス取得、新規パイプラインの適用拡大、新規開発、導入及びその初期開発費用として600百万円、治験準備費用及び早期臨床試験(第 / 相)に係る費用として921百万円を本資金で充当する予定です。なお、現時点において具体的に決定した案件はありませんが、標準的な細胞医薬品の開発プロセスに基づき、上記の概算費用を算出しております。これらは、当社のこれまでの開発ノウハウ及び外部専門家によるアドバイザーに基づき、パイプライン1本あたりの標準的な所要資金を積み上げたものです。

今後、具体的な案件が決定した際には速やかに開示いたします。

#### 運転資金等

上記各パイプラインの開発推進に加え、当社の競争優位性の源泉である「ヒト細胞ビジネスプラットフォーム」及び再生医療等製品の受託製造体制を維持・強化するため、研究開発費、人件費及び一般管理費等の運転資金に充当する予定です。これにより、研究支援事業で創出する収益基盤とメディカル事業における成長投資の両立を図り、継続的な企業価値向上につなげてまいります。

## 第2【売出要項】

該当事項はありません。

## 【募集又は売出しに関する特別記載事項】

### ロックアップ等について

当社は、エクイティ・プログラム契約において、割当予定先との間で以下の事項について合意しています。

エクイティ・プログラム契約の締結日からエクイティ・プログラム契約に基づく各発行の各割当日後90日目に終了する期間中、割当予定先の事前の書面による承諾を受けることなく、当社普通株式、当社のその他の資本性商品、当社普通株式又は当社のその他の資本性商品に転換若しくは交換されうる証券又は当社普通株式若しくは当社のその他の資本性商品を取得若しくは受領する権利を表章する証券の発行等を行わないものとします。但し、本プログラムによる資金調達(以下「本資金調達」という。)並びに本新株予約権又は発行済みの当社新株予約権等の行使による当社普通株式の交付(但し、発行済みの当社新株予約権等の行使により交付される当社普通株式の数は発行済株式数の5%以下とする。)、株式分割又は株式無償割当による当社普通株式の発行、株主への新株予約権無償割当及び当該新株予約権の行使による当社普通株式の交付、当社の取締役等への譲渡制限付株式の発行、ストック・オプションの付与及び当該ストック・オプションの行使による当社普通株式の交付(但し、交付される当社普通株式の数は発行済株式数の5%以下とする。)、又は資本業務提携を目的として当社の戦略的投資家に対して当社普通株式の発行等を行う場合、その他日本法上の要請による場合等を除くものとします。

第1回目の発行の割当日後12ヶ月間、当社は株価連動取引(以下に定義される。)の発行又は締結を行わないものとします。但し、当社の書面による要請に基づき、割当予定先の単独の裁量によりこれに同意した場合はこの限りではありません。

「株価連動取引」とは、( )株式等価物(以下に定義される。)の当初発行後に、当該株式等価物における当社普通株式の取得に係る行使価額若しくは転換価額等が(A)当社普通株式の時価等に連動して決定又は変更されるもの、若しくは(B)当社の事業若しくは当社普通株式の取引市場に関連する事由の発生により調整されるものの発行若しくは売却に係る取引、又は( )当社が将来決定される価格に基づき証券を売却することを内容とする契約等の締結を意味します。

「株式等価物」とは、当社又はその子会社の証券で、その保有者がいつでも株式の取得、転換等ができる権利を有するものを意味し、負債、優先株式、権利、オプション、ワラント若しくはその他の有価証券が含まれます。

当社がエクイティ・プログラム契約に定める一定の取引(当社の連結財務諸表における総資産額の50%超の資産等の処分等)を行った場合又は当社にエクイティ・プログラム契約に定めるデフォルト事由(当社が発行する株式の上場廃止等)が発生した場合等においては、割当予定先が本新株予約権への投資を行うにあたって当初想定した前提に重大な変更が生じることに鑑み、割当予定先が当社に要求した場合には、当社は本新株予約権を当該時点における合理的な価格として、エクイティ・プログラム契約に定めるブラック・ショールズ価格(ブラック・ショールズ・モデルを用いて、当社普通株式の価格、ボラティリティ等を考慮して算出される価格)で買い取るものとします。

当社は、割当予定先の実質的保有株式に係る議決権数が、当社の議決権総数の9.9%を上回ることとなるような取引等を行わないものとします。

## 第3【第三者割当の場合の特記事項】

## 1【割当予定先の状況】

## a. 割当予定先の概要

(1) 名称	CVI Investments, Inc.	
(2) 所在地	Maples Corporate Services Limited, PO Box 309, Ugland House, Grand Cayman KY1-1104, Cayman Islands	
(3) 国内の主たる事務所の責任者の氏名及び連絡先	該当事項はありません。	
(4) 出資額	開示の同意が得られていないため、記載していません。	
(5) 組成目的	投資	
(6) 組成日	2015年7月1日	
(7) 主たる出資者及びその出資比率	開示の同意が得られていないため、記載していません。	
(8) 業務執行組員又はこれに類する者に関する事項	名称	Heights Capital Management, Inc. (以下「HCM」という。)
	所在地	アメリカ合衆国、19801、デラウェア州、ウィルミントン、スイート715、1201Nオレンジストリート、ワン・コマース・センター
	国内の主たる事務所の責任者の氏名及び連絡先	該当事項はありません。
	出資額又は資本金	開示の同意が得られていないため、記載していません。
	事業内容又は組成目的	投資
	主たる出資者及びその出資比率	開示の同意が得られていないため、記載していません。
	代表者の役職・氏名	President Martin Kobinger

(注) 割当予定先の概要の欄は、2026年5月27日現在のものであります。なお、非公開のファンドである割当予定先に関する一部の情報については、当社経営管理部GMの山根幸司が、HCMのAsia Pacific地域投資責任者を通じてInvestment ManagerであるMartin Kobinger氏に確認したものの、開示の同意が得られていないため、記載していません。また、割当予定先が開示の同意を行わない理由につきましては、割当予定先及びHCMはSusquehanna International Groupに属する共通支配下の会社の一つであって、上記二社を含むSusquehanna International Groupに属するエンティティは全て、外部資本の受け入れを行っていない非公開のエンティティであることから、資本構成や資本金・出資金の情報は極めて守秘性の高く、本国においても非公開の情報であるためと聞いております。

## b. 提出者と割当予定先との間の関係

割当予定先との出資関係	該当事項はありません。
割当予定先との人事関係	該当事項はありません。
割当予定先との資金関係	該当事項はありません。
技術又は取引等の関係	該当事項はありません。

(注) 提出者と割当予定先との間の関係の欄は、2026年5月27日現在のものであります。

## c. 割当予定先の選定理由

## (1) 募集に至る経緯及び目的

当社グループは、i P S細胞を事業の中核としており、大学・公的研究機関及び製薬企業等の顧客向けに、研究試薬や細胞等の研究用製品、i P S細胞作製受託等の研究サービス、及び細胞測定機器を提供する「研究支援事業」、並びに再生医療等製品の研究開発、再生医療等製品の受託製造事業、臨床検査受託サービスを展開する「メディカル事業」の2つのセグメントを展開し、再生医療領域におけるグローバルなマーケットリーダーとなることを目指しております。

当社グループを取り巻く市場環境といたしましては、再生医療産業のグローバル市場規模が2030年に約17兆円へと成長することが見込まれております(経済産業省「再生医療の実用化・産業化に関する研究会の最終報告」)。また、日本では薬機法に基づく条件・期限付き承認制度等により、早期の実用化を強力に後押しする環境が整備されております。このような状況の下、当社グループは、短中期的な収益の柱である「研究支援事業」と、中長期的な成長を牽引する「メディカル事業」の両輪を組み合わせることで、持続的かつ連続的な企業成長の実現を図っております。

中長期的な成長の柱である「メディカル事業」におきましては、これまでの先行投資が具体的な成果として結実する重要な局面を迎えております。

台湾のステミネント社より導入した脊髄小脳変性症を対象とする「ステムカイマル」につきましては、日本国内で実施した第 相臨床試験(2020年2月投与開始、2022年5月完了)では、全被験者で重篤な有害事象は認められず、安全性が確認されました。有効性については、主要評価項目であるSARAスコアにおいて、実薬群のスコア上昇が自然歴と比較して抑制される傾向が確認されました。また、ステミネント社が台湾で実施した第相臨床試験でも、安全性に問題はなく、SARAスコアの改善及び進行抑制効果が確認され、日本での試験結果を裏付けるものとなりました。2024年11月に提携先のステミネント社が外国製造業者としての認定を受けた(当社が2024年11月11日付で開示いたしました「ステミネント社の再生医療等製品外国製造業者の認定のお知らせ」をご参照ください。)要件の充足等を踏まえ、日本での製造販売承認申請に向けた準備を進めております。

i P S神経グリア細胞製品につきましては、ALSモデルラット(ALS病態を再現したラット)を用いた実験で、i P S神経グリア細胞投与群において、非投与群と比較して運動機能低下が有意に抑制される結果を得ました。また、投与したi P S神経グリア細胞がラット体内に長期間生着し、運動神経を活性化していることも確認されています。これらの有望な非臨床データを基に、ALSを対象とした臨床試験の早期開始に向けた準備を加速してまいります。

次なる成長の柱として戦略的に取り組む「固形がんを対象としたがん細胞免疫療法」分野においても、「腫瘍浸潤リンパ球(TIL)療法」及び「GPC-1 CAR-T療法」の2つの再生医療等製品の研究開発を進めております。

腫瘍浸潤リンパ球(TIL)療法においては、慶應義塾大学が実施している進行子宮頸がんを対象とする先進医療Bにおいて、当社製造のTILを用いて、2例目の患者様への投与が実施されております。さらに、TILの新規培養法に関する新たな共同研究契約を慶應義塾大学と締結し、早期の事業化を目指しております。

難治性固形がんを対象とした「GPC-1 CAR-T療法」については、2024年12月に国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の公募事業「再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業」に採択されました(当社が2024年12月10日付で公表した「AMED公募事業『再生医療・遺伝子治療の産業化に向けた基盤技術開発事業』の採択に関するお知らせ(課題名:GPC-1陽性再発・難治固形癌に対する新規GPC-1 CAR-T療法の開発)」をご参照ください。)。現在、京都大学大学院医学研究科早期医療開発学講座及び国際医療福祉大学医学部免疫学との委託契約を締結し、食道がんを対象とした臨床試験の早期開始に向けて準備を進めております。

加えて、再生医療等製品の受託製造事業においても、2026年にAI設計ゲノム編集システム「StemEdit™」やMCB製造サービスの提供を開始し、一気通貫のサービス体制を確立するなど、再生医療事業を加速させております。

このような状況の下、当社は更なる企業価値向上を加速させるため、本資金調達を実施いたします。本資金調達の主な目的は、現在進行中であるTIL療法プロジェクトを計画通りに完遂させるための資金(前回(2023年12月)の発行時における新規パイプラインの導入及び治験に係る費用に係る充当予定額1,990百万円から実際の調達資金1,119百万円を差し引いた調達資金不足額871百万円)を確保するとともに、次なるパイプラインである難治性固形がんを対象とした「GPC-1 CAR-T療法」の開発を強力に推進することにあります。

加えて、将来の事業拡張を見据え、「StemEdit™」及びi P S細胞エクソソーム技術による高度な細胞(及び、セルフリー)治療など、当社の技術基盤とシナジーが見込まれる領域において、機動的に新規案件の立ち上げ、及び共同研究を進めてまいります。

新規パイプラインの対象疾患としては、患者数が数万人程度の希少疾患領域を中心に検討を進めており、1件あたりの導入及び治験に係る費用としては10~20億円程度を想定しております。これらの継続的かつ機動的な資金投下は、将来にわたる当社の収益の柱を幾重にも構築し、中長期的な企業価値を飛躍的に向上させるための極めて重要な布石となります。

当社の財務状況におきましては、2026年3月末現在で現金及び有価証券を合計で約6,507百万円保有しており、強固な手元流動性を確保し、一定の安定した財務基盤を有しております。一方で、当期の業績は、当社の主要市場である米国において、研究関連予算縮減に伴う研究機関等の予算執行の停滞といった影響を大きく受けました。その結果、2026年3月期連結会計年度の売上高は2,233百万円、営業損失は860百万円となり、親会社株主に帰属する当期純損失として591百万円を計上し、未だ営業活動によるキャッシュフローを安定的に創出するには至っておりません。

さらに、直近では、中東情勢の緊迫化によるエネルギー及び資材の供給問題もあり、予断を許さない状況が続いております。しかしながら、こうした世界的な政局不安やマクロ経済環境の逆風下にあっても、次世代の主力パイプラインに対する研究開発投資を停滞させることは、当社の将来の成長機会を著しく損なうものと考えております。

このように外部環境の変動による影響を受ける中においても、当社が自らの意志で連続的な企業成長を実現するためには、機動的な資金調達手段の確保と既存株主の皆様への配慮を両立させる必要があります。本プログラムは、計4回にわたって当社普通株式及び当社新株予約権を発行するハイブリッド型のスキームとなります。普通株式の発行により当面の研究開発等に必要となる資金を一定額確実かつ迅速に確保しつつ、各発行決議日時点の株価水準よりも高い行使価額（各回発行決議日の直前取引日終値の120%）が設定されたプレミアム新株予約権を発行することで、将来の当社事業の進捗とそれに伴う企業価値向上に応じた追加的な成長資金の獲得を可能とする設計となっております。なお、各回発行決議日の直前取引日終値の120%という水準は、既存株主様の利益保護と資金調達の確実性の最適なバランスを考慮しながら割当予定先と協議の上、決定したものです。以上のスキームにより、強固な財務基盤を維持しながら、一時の過度な株式の希薄化を分散・抑制し、既存株主の皆様への利益に十分配慮した最適な資金調達が実現できると判断し、本プログラムの導入を決定いたしました。今回の資金調達を通じて得られた資金を成長ドライバーであるメディカル事業の各パイプラインに機動的かつ集中的に投下することで、早期の事業化及び収益化を確実なものとし、将来的な利益創出と株主価値の増大へとつなげてまいります。今回の資金調達は、当社の中長期的な企業価値を大きく向上させ、ステークホルダーの皆様への利益に資するものと考えております。

上記のとおり、当社の置かれた状況を踏まえ、資金調達手法について検討してまいりました。かかる状況の中、従前より当社の決算発表後等に特定の取引に関連しない平常的な面談を複数回実施してきた、割当予定先の資産運用を行う会社であるHeights Capital Management, Inc.のAsia Pacific地域投資責任者より、2025年11月頃に当社に対し第三者割当を通じた資金調達に関する初期的な提案がありました。その後、当社は、Heights Capital Management, Inc.の本邦上場企業に対する投資実績、投資先と良好な関係を構築しながら投資先を育成していく投資方針に鑑み、本格的に資金調達に関する協議を開始することを決定し、Heights Capital Management, Inc.との間で調達金額、発行証券の商品性等について協議を行いました。その結果、今後の事業戦略、資金調達ニーズを踏まえた当社の意向に可及的に合致する本資金調達のスキームについて合意するに至ったため、Heights Capital Management, Inc.が資産運用を行うCVI Investments, Inc.を割当予定先として選定することに決定いたしました。

## (2) 本第三者割当を選択した理由

当社は、上記「(1) 募集に至る経緯及び目的」に記載の資金調達を行うために、様々な資金調達方法を検討してまいりましたところ、割当予定先から本資金調達の提案を受けました。当社は、本普通株式及び本新株予約権の発行により、当社の資金需要に対し一定の金額を発行時点で調達することができ、また、残りの必要金額については本新株予約権の行使により株価に配慮した形での調達が可能となるため、今般の資金調達を選択いたしました。また、当社は今回の資金調達に際し、以下の「(本資金調達の特徴)」及び「(他の資金調達方法との比較)」に記載されている点を総合的に勘案した結果、本資金調達による資金調達方法が、既存株主の利益に配慮しながら当社の将来の資金ニーズに対応しうる、現時点において最適な選択肢であると判断し、本手法を採用することといたしました。なお、本資金調達は本普通株式及び本新株予約権の発行によって達成されるものであるため、本「(2) 本第三者割当を選択した理由」においては、本新株予約権の発行についても併せて記載しております。

なお、本資金調達により、当社普通株式の価値に一定の希薄化が生じることとなります。特に、本新株予約権につきましては、下記のとおり行使価額の調整条項に割当予定先から提案を受けたフルラケット方式を採用しているところ、下記「(本資金調達の特徴) [デメリット]」に記載のとおり、フルラケット方式には、発行時の条件よりも少ない調達金額により既存株主の持分希薄化が生じる可能性があるというデメリットがあります。もっとも、上記「(1) 募集に至る経緯及び目的」に記載した本資金調達の必要性等を踏まえれば、フルラケット方式による行使価額の調整条項を含む本資金調達のスキームは、これを全体としてみれば、既存株主の皆様への不相当な不利益を与えるものではなく、本資金調達により当社の中長期的な企業価値の向上が期待されることから、結果として既存株主の皆様への利益向上につながるものと考えております。

### (本資金調達の特徴)

## 〔メリット〕

本普通株式の発行により、証券の発行時に一定の資金調達が可能となり、上記「(1) 募集に至る経緯及び目的」に記載した事業戦略を遅滞なく円滑に遂行することが可能となります。

エクイティ・プログラム契約という形態を取ることで、一度に全株を発行する場合と比べ、株価インパクトの分散化が可能となります。また、当社が予定する将来の事業進捗をより織り込んだ株価によって発行ができる可能性が高まるため、既存株主の保有する株式価値が向上することが期待され、既存株主の希薄化等に対してもより配慮した設計となります。

本新株予約権の発行により、将来的な自己資本の拡充が期待可能でありつつも、段階的に行使が行われることが期待できるため、株価インパクトの分散化が可能となります。

本新株予約権の行使価額は発行決議日の直前取引日終値の120%に相当する金額に固定されており、修正条項が付されていない分、資金調達のスピード感や蓋然性は低くなることが想定されますが、他方において、各発行決議日時点の株価水準よりも高い水準での行使が期待できます。なお、当社普通株式の交付を請求できる新株予約権や新株予約権付社債等を当社が新たに発行する場合で、当該新株予約権の当初行使価額等が本新株予約権の行使価額を下回る場合には、本新株予約権に付された調整規定の適用により、本新株予約権の行使価額は、新たに発行される新株予約権又は新株予約権付社債の行使価額又は転換価額と同額になるよう下方調整されます。但し、エクイティ・プログラム契約に基づいて割当予定先に対して発行する第2回発行から第4回発行に係る本普通株式及び本新株予約権の発行等、本新株予約権の発行要項に定められた一定の例外に該当する場合には、下方調整はされません。

本普通株式の発行により発行される当社普通株式は最大11,728,000株（各回の発行につき最大2,932,000株）、本新株予約権の目的である当社普通株式数は最大11,728,000株（各回の発行による本新株予約権についてそれぞれ最大2,932,000株）でそれぞれ固定されており、株価動向にかかわらず、最大交付株式数が限定されているため、希薄化の規模が当初予定より増加することはありません。

本普通株式による調達資金、本新株予約権による調達金額のうち行使の対象となった金額はいずれも資本性の資金となるため、財務柔軟性が向上します。

## 〔デメリット〕

本普通株式及び本新株予約権の発行は、上記「第1 募集要項 1 新規発行株式」（注）3に記載のとおり、本発行条件の成就を条件としており、当該条件が成就されない場合、本普通株式及び本新株予約権の発行による資金調達の一部が実現しない可能性があります。

本普通株式については即座の資金調達が可能ですが、本新株予約権については、新株予約権の特徴として、新株予約権者による権利行使があつて初めて、行使価額に行使の対象となる株式数を乗じた金額の資金調達がなされます。そのため、本新株予約権の発行当初に発行を予定する金額の満額の資金調達が行われるわけではなく、また資金調達の時期についても不確実性があります。

市場環境に応じて、本新株予約権の行使完了までには一定の期間が必要となります。また、当社の株式の流動性が減少した場合には、行使完了までに時間がかかる可能性があります。

本新株予約権は、行使価額修正型ではないため、株価が本新株予約権の行使価額を下回って推移した場合、割当予定先による本新株予約権の行使が期待できず、事実上資金調達ができない仕組みとなっております。特に、本新株予約権の行使価額は現状の株価水準よりも高い価格に設定・固定されており、行使がなされるためには株価の上昇が必要であるため、その行使の蓋然性は相対的に低くなっております。

株価が本新株予約権の行使価額を超えている場合でも、割当予定先が本新株予約権を行使するとは限らず、資金調達の時期には不確実性があります。

本新株予約権に係る行使価額の調整条項は、フルラケット方式を採用しております。本新株予約権に付された行使価額の調整条項においては、当社が、新たに新株式の発行や自己株式の処分を行う場合においては、当該発行・処分に係る払込金額、新株予約権や取得請求権付株式等を発行・付与する場合には、これらの行使又は転換に係る当社普通株式1株当たりの対価（以下「取得価額等」という。）、新株予約権や取得請求権付株式等の取得価額等について下方修正が行われた場合においては、下方修正後の取得価額等が、それぞれ本新株予約権の行使価額を下回る場合等において、本新株予約権の行使価額が乃至の金額と同額に下方調整されます。これにより、割当予定先は、後発的に当社が他の投資家にとってより有利な条件で新株式等を発行した場合でも、常にその条件を踏まえて調整された行使価額によって本新株予約権を行使できることから、投資回収の不確実性が低減される一方で、当社が将来、本新株予約権の行使価額を下回る金額で資金調達を行う場合には、本新株予約権の行使価額がそのたびに下方調整されることとなります。その後、当社の株価が上昇しても本新株予約権の行使価額は上方には調整されず、また、当社の裁量により本新株予約権を取得することもできません。結果として、発行時の条件よりも少ない調達金額で、既存株主の持分比率が段階的に希薄化していく可能性があります。

（他の資金調達方法との比較）

公募増資等により一度に全株を発行すると、一時に資金を調達できる反面、希薄化も一時に発生するため株価への影響が大きくなるおそれがあると考えられます。また、一般投資家の参加率が不透明であることから、十分な額の資金を調達できるかどうか不透明であり、今回の資金調達方法として適当でないと判断いたしました。

普通社債又は借入れによる資金調達では、利息負担が生じ、調達金額が全額負債として計上されるため、本資金調達において調達するのと同規模の資金を全て負債により調達した場合、財務健全性が低下する可能性があります。今後の事業戦略推進において、緊急の資金需要が生じた場合に備えて迅速に有利子負債による資金調達を行う選択肢を残す観点からも、普通社債の発行又は借入れにより調達することは現時点における現実的な選択肢ではないと判断いたしました。

株主割当増資では出資を履行した株主の間では希薄化懸念は払拭されますが、割当先である既存投資家の参加率が不透明であることから、十分な額の資金を調達できるかどうか不透明であり、今回の資金調達方法として適当でないと判断いたしました。

いわゆるライツ・イシューには、発行会社が金融商品取引業者と元引受契約を締結するコミットメント型ライツ・イシューと、発行会社はそのような契約を締結せず、新株予約権の行使が株主の決定に委ねられるノンコミットメント型ライツ・イシューがありますが、コミットメント型ライツ・イシューについては国内で実施された実績が乏しく、資金調達手法としてまだ成熟が進んでいない段階にある一方で、引受手数料等のコストが増大することが予想され、適切な資金調達方法ではない可能性があります。また、ノンコミットメント型ライツ・イシューについては、割当先である既存投資家の参加率が不透明であることから、十分な額の資金調達を実現できるかどうか不透明であると考えられます。

行使価額修正条項付の新株予約権には、様々な設計がありますが、その行使価額は下方にも修正される形が一般的です。行使価額修正条項付の新株予約権は行使の蓋然性が高まる一方、資金調達の金額が当初の予定を下回ることも珍しくありません。今般の資金調達に際しては、本普通株式の発行により当面必要な資金を調達しつつ、本新株予約権については現状の株価水準よりも高い水準で行使価額を設定・固定し、株価上昇後に行使が行われる設計とすることにより、既存株主の株式価値を損なうことなく、追加的な資金調達を当初の予定どおりの金額規模で達成できる見込みです。このように、行使価額が下方修正されるタイプの修正条項付の新株予約権に比べて、想定どおりの金額での資金調達を実現できる可能性が高いという意味で、本新株予約権は当社の資金需要に合致した資金調達方法であると考えております。

転換社債型新株予約権付社債は、発行当初に資金調達が可能となるものの、その全額が当初負債となり、その後の転換状況も株価に依拠することとなります。株価の状況等により行使が進まなければ、負債であるため、当社の財務の健全性を害することから今回の資金調達方法として適当ではないと判断いたしました。

第三者割当により一度に当社普通株式のみを発行する場合、一時に資金調達を可能とする反面、1株当たり利益の希薄化も一時に引き起こすため、株価に対する直接的な影響が大きいと考えられること、また現実的に本資金調達と同規模の金額を一度に引き受ける投資家を見つけることは困難であることから、今回の資金調達方法として適当でないと判断いたしました。

#### d．割り当てようとする株式の数

2026年3月31日における当社の総議決権数949,796個に係る株式数95,147,891株の12.33%である11,728,000株を上限とします。

#### e．株券等の保有方針

割当予定先との間で、本プログラムにより発行される本普通株式について、継続保有に関する取り決めはありません。なお、当社代表取締役の横山周史が、HCMのAsia Pacific地域投資責任者を通じてInvestment ManagerであるMartin Kobinger氏より、本普通株式に関する割当予定先の保有方針は、純投資であると口頭で確認しております。なお、割当予定先は、中長期投資ができる余裕を持つ機関投資家として広く知られており、当社にとって将来の成長を加速するための資本パートナーとなると考えております。このため、エクイティ・プログラム契約上、割当予定先の実質的保有株式に係る議決権数が、当社の議決権総数の9.9%を上回ることをないようにする旨を盛り込んでおります。当社は、割当予定先より、全4回それぞれの第三者割当の払込みから2年以内に本普通株式の全部又は一部を譲渡した場合には、その内容を当社に対し書面により報告すること、並びに当社が当該報告内容を東京証券取引所に報告すること及び当該報告内容が公衆の縦覧に供されることに同意することにつき、確約書を取得する予定です。

#### f．払込みに要する資金等の状況

当社は、割当予定先から、割当予定先が作成し、2026年2月末現在の未監査貸借対照表を受領しており、割当予定先との間で締結したエクイティ・プログラム契約において、割当予定先より払込みに要する十分な財産を保有する旨の表明を受けています。また、当社経営管理部GMの山根幸司が、HCMのAsia Pacific地域投資責任者を通じてInvestment ManagerであるMartin Kobinger氏に対する書面による確認により払込みにあたって十分な資産が

あること及び自己資金での払込みであることを2026年5月22日に確認しており、割当予定先に割り当てられる本普通株式及び本新株予約権の発行に係る払込みに十分な財産を有することを確認しております。なお、割当予定先は、Susquehanna International Groupが有する自己資金で運用する機関投資家です。

#### g. 割当予定先の実態

当社は、割当予定先との間で締結したエクイティ・プログラム契約において、割当予定先から、割当予定先及びその主な出資者が反社会的勢力ではなく、又は反社会的勢力と何らかの関係ない旨の表明保証を受けています。さらに、割当予定先及びその業務執行組合員について、反社会的勢力であるか否か、並びに割当予定先及びその業務執行組合員が反社会的勢力と何らかの関係を有しているか否かについて、独自に専門の第三者調査機関であるリスクプロ株式会社(代表取締役:小坂橋仁、本社:東京都千代田区九段南二丁目3番14号靖国九段南ビル2F)に調査を依頼し、2026年5月1日に同社より報告を受けております。当該報告において、割当予定先若しくはその業務執行組合員が反社会的勢力である、又は割当予定先若しくはその業務執行組合員が反社会的勢力と何らかの関係を有している旨の報告はありませんでした。以上により、当社は、割当予定先並びにその業務執行組合員及び主な出資者が反社会的勢力と一切の関係がないと判断し、これに係る確認書を東京証券取引所に提出しております。

## 2【株券等の譲渡制限】

本普通株式及び本新株予約権には譲渡制限は付されていません。但し、割当予定先との間で締結したエクイティ・プログラム契約において、本新株予約権の譲渡(但し、割当予定先の投資管理目的で、Bank of America、J.P. Morgan及びGoldman Sachs & Co.並びにこれらの関連会社に対する譲渡(注)を除きます。)の際に当社取締役会の承認が必要である旨が定められております。

(注) 割当予定先は、保有する資産について、効率的な資金運用を目的として同社のプライム・ブローカー口座に移転することがあります。この場合、当該資産は形式的にはプライム・ブローカーに移転されるものの、割当予定先が引き続き実質的保有者として経済的利益を有します。

## 3【発行条件に関する事項】

未定

## 4【大規模な第三者割当に関する事項】

該当事項はありません。

## 5【第三者割当後の大株主の状況】

未定

## 6【大規模な第三者割当の必要性】

該当事項はありません。

## 7【株式併合等の予定の有無及び内容】

該当事項はありません。

## 8【その他参考になる事項】

該当事項はありません。

## 第4【その他の記載事項】

該当事項はありません。

## 第二部【参照情報】

### 第1【参照書類】

会社の概況及び事業の概況等金融商品取引法第5条第1項第2号に掲げる事項については、以下に掲げる書類を参照すること。

#### 1【有価証券報告書及びその添付書類】

事業年度 第23期(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) 2025年6月26日に関東財務局長に提出

事業年度 第24期(自 2025年4月1日 至 2026年3月31日) 2026年6月30日までに関東財務局長に提出予定

#### 2【半期報告書】

事業年度 第24期中(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日) 2025年11月13日に関東財務局長に提出

事業年度 第25期中(自 2026年4月1日 至 2026年9月30日) 2026年11月16日までに関東財務局長に提出予定

#### 3【臨時報告書】

該当事項はありません。

#### 4【訂正報告書】

該当事項はありません。

### 第2【参照書類の補完情報】

上記に掲げた参照書類としての有価証券報告書及び半期報告書(以下「有価証券報告書等」という。)に記載された「事業等のリスク」について、当該有価証券報告書等の提出日以後、本発行登録書提出日(2026年5月27日)までの間において生じた変更その他の事由はありません。

また、当該有価証券報告書等に記載されている将来に関する事項は、本発行登録書提出日(2026年5月27日)現在においてもその判断に変更はなく、新たに記載すべき将来に関する事項もありません。なお、当該将来に関する事項については、その達成を保証するものではありません。

### 第3【参照書類を縦覧に供している場所】

株式会社リプロセル 本店

(神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目8番11号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

### 第三部【保証会社等の情報】

該当事項はありません。